



Republic of
Ghana
08

ガーナってどんな国?こんな国!

河毛 樹

広島市立広島特別支援学校

●実践教科等/社会、国語
●時間数/15時間

●対象学年/高等部1年生
●対象人数/生徒10名、教員3名



広島とガーナ、同年代の子どもの生活を比較して理解させていく手法が素晴らしい。また、絵葉書でメッセージを送るアイデアもよかった。

❖カリキュラム

- 【実践の目的】
- 世界には多くの国々があることを理解させる。
 - 地図に親しむことによって、世界地理に対する興味や関心を高める。
 - ガーナを通して、開発途上国の置かれている現状や日本との関係を知る。
 - 日本と比較することを通して、ガーナの自然や文化、学生生活に対する理解を深める。
 - ガーナのダンスや音楽、民族衣装を通してガーナの文化や生活を知る。
 - 文通を通して、ガーナの生徒や英語に親近感を持たせる。
 - ピースメッセージカード作りを通して、身近な人にガーナを知ってもらう。

❖授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 2	世界地図を描こう ・世界には多くの国々があることを理解させる ・地図に親しむことによって、世界地理に対する興味や関心を高める	・自分の知っている国をノートに書き、発表する(国名でなくてもそのまま発表させる) ・地図帳で位置を確認する・地域別に分類する ・プリントにある都市を地図帳で探す ・ノートに世界地図を描く	・世界地図 ・学習プリント ・地図帳
3 4	君もガーナへ行ってみよう ・五感を使ってガーナを感じる ・スライドを通してガーナの様子を知る ・チョコレートなどを通して日本との関係を知る	・地図帳でガーナを探す・知っていることを発表する ・スライドショー「ガーナへの旅1・2・3」を視聴映画館の様にして臨場感をだす(暗幕で暗くし、液晶ビジョンを使ってアフリカサウンドつき大画面で) ・ガーナを味わう(日本とも関係が深いチョコレートやココアコーラなどで) ・ガーナに触れてみる	・スライド・世界地図 ・ガーナチョコレート、ココアコーラなど ・楽器・本・ノート ・ケンテ・人形 ・首飾り・革製品 ・切手、絵葉書など
5 6	君もガーナ人になってみよう 日本(広島)と比較することを通して、ガーナの自然や文化、学生生活に対する理解を深める	・前時の振り返り(大地の色は?人びとの肌の色?) ・あいさつをしよう(日本語・英語・チュイ語で) ・自己紹介をしてみよう(表から曜日名を探す) ・子どもたちの生活を知ろう(アンケートから)	・地図・赤土 ・ガーナの写真・言葉カード ・曜日表・学習プリント ・アンケート(拡大版)
7 8	君もガーナ人になってみよう2 ダンスや音楽そして民族衣装を通してガーナの文化や生活にふれる	・ジャンベやマラカスの演奏(ゲストティーチャーと) ・ケンテなどの民族衣装の紹介と試着 ・記念撮影 ・DVDでガーナのダンスを見る ・ゲストティーチャーの指導でガーナダンスを楽しむ ・ジャンベやマラカスに合わせて踊ってみる	・楽器(ジャンベ、ボンゴ、コンガ、フルートム、マラカスなど) ・民族衣装・地図・カメラ ・ガーナダンスのDVD ・ゲストティーチャー (JICA出前講座)
9 13	ガーナの生徒に手紙の返事を書こう (国語) 文通を通して、ガーナの生徒や英語に親近感を持たせる	・ガーナの生徒からの手紙紹介(1人ずつに手紙を渡す) ・訳した手紙を読んでみる ・返事を書く(例文を参考に内容を考える) ・完成した下書きの発表 ・簡単な英語表現の紹介と音読練習 ・日本語の下書きを元に英語で手紙を書く(綴りをなぞる) ・各自必要な箇所に英語を書き足す(名前・年齢・兄弟姉妹・好きなことなど) ・完成した英文の発表(手紙にカットを入れる)	・ガーナの生徒の手紙 ・学習プリント ・色鉛筆など
14 15 (15分)	みんなにもガーナを知ってもらおう ピースメッセージカード作りを通して、身近な人にガーナを知ってもらう	・ガーナの生徒からのピースメッセージ紹介(1人ずつに手紙を渡す) ・訳した手紙を読んでみる ・絵葉書に自分のピースメッセージを書く ・完成したピースメッセージの発表 ・ピースメッセージの発送	・ガーナの生徒からのピースメッセージ ・ガーナの絵葉書 ・切手

◆授業の詳細

1・2時限目 世界地図を描こう

おそらく生徒の全員が、中学校で世界地理を系統だって学習していないと思われ、また、教師も生徒がどれだけ世界地理について知識や興味、関心があるのか把握していなかった。そのため、授業でははじめに、自分がどれだけの国を知っているかノートに書かせていき、それを1人ずつ発表させていった。(出ないときは、教師が援助したりした。)個人差があるものの全体で24カ国(南極、アフリカなど国でないものも含め)出すことができた。その後、地図帳を使って出た国をみんなで見つけていった。2時限目に、さらに地図に親しむために、世界の有名な都市を探しながら地図上で世界各地を旅行していった。まとめとして予定していた、世界地図をノートに書くことは、時間の関係で出来なかった。

〈所感〉

はじめは生徒も教師も手さぐり状態で、授業が成り立つかという不安もあったが、(個人差があるものの)多くの生徒が世界の国々に興味や関心があることがわかった。おそらく、生徒の多くがテレビ番組などを通して日ごろから特に意識することはなくても、世界の国々の様子を見ているためだと思われる。

3・4時限目 君もガーナへ行ってみよう

「君もガーナへ行ってみよう」では、スライドを通してガーナの様子を生徒に視聴させていった。生徒の実態を踏まえて、視・聴・味・触・嗅の五感にうったえるように心がけた。具体的には、「視」=「テレビ」ではなく、「液晶ビジョン」を使っての大画面で視覚にうったえてみた。「聴」=「スライドショーのBGM」に、ガーナをはじめとするアフリカの音楽を使い、臨場感を高めるよう試みた。「味」=「暮あいにガーナで購入したチョコレートやガーナでも売られていたスプライト・ファンタ・コココーラなどを味わう」ことをとり入れながらガーナに引きつけようと試みた。「触」=「ガーナ



君もガーナへ行ってみようの授業風景

コーナーをつくり、持ち帰った楽器・本・ノート・ケンテ・人形・首飾り・革製品・切手・絵葉書などを自由に手に取らす」ようにしてみた。「嗅」=「ガーナの赤土」で試みた。

生徒の感想より

ガーナでは、車が右側通行をしていた。ガーナは、日本から遠いところにある国。

ガーナ人は、英語で話している。ダンスがよかった。

ガーナの教室は、暗そうだった。

荷物を頭で運んでいたのにはおどろいた。

生徒が机やいすを持ってかえるのにはおどろいた。

ガーナチョコレートは、おいしかった。

またスライドショーを見たい。

ガーナのダンスを踊ってみたい。衣装がきれいだった。

〈所感〉

スライドショー「ガーナへの旅1・2・3」は、いろいろと写真を整理していったが、結局全部で70分をこえるものになり、はたして生徒が最後までみてくれるか、授業になるかなどと不安もあった。しかし、蓋を開けてみると、生徒は教師の説明や質問に答えながら飽きることなく最後までスライドを視聴することが出来た。本物がもつ力か、生徒は、言葉数は少ないがいろいろと感じていたようだった。

5・6時限目 君もガーナ人になってみよう

「君もガーナ人になってみよう」では、スライドショーの復習を兼ねて、地図でガーナを押さえたり、実物教材(赤土)や写真を使って広島とガーナを比較したりしていった。次にカードを使って、英語やチェイ語でのあいさつや自己紹介の仕方を学習していった。南部ガーナ特有の曜日名については、表を使って実際に調べさせた。最後に、ガーナの生徒のアンケートを使って、同年代の生徒がどのような1日をおくっているのかを自分と比較しながらみていった。



君もガーナ人になってみようの授業風景

田中 紀子
報告書①

古川 匠子
報告書②

村木 啓司
報告書③

星森 美由姫
報告書④

黒明 聖一郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝迫 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 泰三
報告書⑨

安部 一美
報告書⑩

参考資料

生徒の感想より

チュイ語が楽しかった。

自分の曜日名はかっこいいと思った。

ガーナの土の色が赤いのにビックリした。

ガーナの生徒が早起きするのにはおどろいた。

ガーナの生徒はよく勉強をすることがわかった。

〈所感〉

実物(赤土)や写真、カード等視覚にうったえる教材は、ガーナを理解する上で大変効果的であったように思う。授業を終えてしばらくの間、私にチュイ語であいさつをする生徒もいた。ガーナの生徒の1日の生活(アンケート)は、自分の1日の生活と比べることで、ガーナの生徒をより身近に感じることが出来たように思う。

7・8 時 限 目 君もガーナ人になってみよう2

「君もガーナ人になってみよう2」では、生徒の要望もあり、ダンスや音楽そして民族衣装を通してガーナの文化や生活にふれることをねらって授業を計画した。ゲストティーチャー(JICA出前講座)として羽熊広太さん、井尚子さんをお招きした。ジャンベをたたいて相手に気持ちを伝えることに挑戦したり、民族衣装を着てジャンベやマラカスで演奏したりして楽しんだ。少し休憩した後、ガーナファンデーションの生徒によるダンスをDVDで視聴した。最後に井尚子さんのジャンベのリズムと羽熊広太さんのリードでガーナダンスをみんなで一緒に踊って楽しんだ。



君もガーナ人になってみよう2の始まりころの授業風景

生徒の感想より

・ガーナの衣装が気に入った。

・民族衣装はきれいでした。 ・またやってみたい。

・太鼓をたたきすぎて手がいたくなった。

・M君はダンスが上手だった。 ・先生のダンスがよかった。

〈所感〉

生徒の要望もあり授業を計画してみたが、はたして生徒たちがどのような反応をするのか不安もあった。しかしこれもまた蓋を開けてみると生徒たちはダンスや音楽そして民族衣装を十分に楽しんでいたように思う。リズムよく踊る生徒、足が不自由だが手を動かして踊っている生徒、民族衣装が気に入った女子生徒等々、やはり講師の先生方の方によるところが大だった。また、相担(本校では複数で授業を担当している)の先生方が、楽しい雰囲気づくりに力をかけてくださったお陰でもあった。

9~13 時 限 目 ガーナの生徒に手紙の返事を書こう

社会科の授業時間だけでは足りないこともあり、竹内雅彦先生(国語科担当、英語教員)に依頼して、国語の授業を使ってガーナファンデーションの生徒へ手紙の返事を書くことにした。授業は、

1. 生徒1人ずつにガーナの生徒から預かった手紙を渡す。
2. 実際に手紙を読んでみる。(事前に訳してある)
3. 例文を参考にして、返事の内容を考える。
4. 完成した下書き(日本語)を発表する。
5. 簡単な英語表現を紹介し、音読練習、綴り練習をする。
6. 日本語の下書きを元に英語で手紙を書く。
(綴りをなぞる)
7. 各自必要な箇所に英語を書き足す。
(名前、年齢、兄弟姉妹、好きなことなど)
8. 手紙に自分や広島のことを表わすような絵を描く。
9. 簡単な英語表現の音読練習をし、作成した手紙を音読発表する。
10. みんなで郵便局に行って手紙を出す。
という流れで行った。



ガーナの生徒に手紙の返事を書こうの授業風景
「えーと、スペルは?」



ガーナの生徒に手紙の返事を書こうの授業風景2「やったー!完成」

〈所感〉

竹内雅彦先生(国語科担当、英語教員)の適切な指導や援助のおかげで、生徒たちは十分に達成感を味わいながら、初めての英文での手紙を完成することができたと思う。また、スライドショー「ガーナへの旅1・2・3」やガーナファンデーションの生徒によるダンスを視聴することで手紙を書こうとする意欲を高めることができたと思う。

14・15 時間目 みんなにもガーナを知ってもらおう

ピースメッセージカード作りを通して、身近な人に自分たちが学んだガーナに少しでも関心を持ってもらうことをねらいにして授業を計画した。授業は、

1. 生徒1人ずつにガーナファンデーションの生徒からのピースメッセージを渡す。
 2. メッセージを読んでみる。(事前に訳してある)
 3. 例文を参考にして、返事の内容を考える。
 4. 完成した下書きを発表する。
 5. 絵葉書に自分のピースメッセージを書く。
 6. ピースメッセージカードを発送する。
- という流れで行う。

❖成果と課題

今回の授業は、生徒にとってはおそらく初めてのガーナを通しての世界地理の授業だったと思われる。いろいろな生徒の実態もあり、はたして授業が成り立つのかという不安もあった。その様ななかでの成果として、

1. 生徒を最後まで楽しく授業に参加させることができた。
 2. ガーナをより身近に感じさせることができた。
- などが挙げられる。また、それを達成することができた理由として、視覚を中心に五感にうったえるような教材をとり入れたこと、実際に自分が体験したことでの取り組みやすさ(実際の映像の中に先生が映っているなども含めて)、ゲストティーチャーやジャンベ、民族衣装など本物に触れた授業、ダンスや楽器を使っての演奏など座学だけでなく体も動かす授業、相担の先生方のおしめない協力などが挙げられる。今回多くの時間を使って取り組んできたが、まだまだ伝えたいことはあり、そのための資料もある。これからも機会をつくって自分が体験したことを多くの人に伝えていきたいと思う。



田中 紀子
報告書①

古野 匠子
報告書②

村木 啓司
報告書③

重森 美由姫
報告書④

黒明 堅一郎
報告書⑤

山崎 知代子
報告書⑥

祝迫 直子
報告書⑦

河毛 樹
報告書⑧

森 泰三
報告書⑨

安部 一実
報告書⑩

参考資料